

# 平成28年度 学校評価・学校関係者評価

## 1 本年度の学校経営方針・重点目標

【学校教育目標】	【目指す生徒像】	【目指す教師像】
<b>『すべての生徒が安心して学習できる学校づくり』</b> <input type="checkbox"/> 教師、生徒、保護者、地域が一体となった学校づくり <input type="checkbox"/> 赤穂中学校の「誇りと信頼」再構築	<b>校訓 『 明けく・浄く・直く 』</b>  【明けく】 公明正大で、切磋琢磨して学習に真剣に取り組む生徒 【浄く】 心や行いがきれいで正しく、やましいところがない生徒 【直く】 正しく堂々とした生活をし、素直で誠実な生徒	I 人権感覚を磨き、感性を高め、人と命を大切にす教師 II わかる授業と学力向上への工夫と改善に努める教師 III 生徒の気持ちに寄り添い、支え伸ばす教師 IV 生徒の主体性と可能性に期待し、信じる教師 V 挑戦と振り返りにより自分を鍛え、成長する教師

## 2 自己評価結果(A～D) A:よくあてはまる B:ややあてはまる C:あまりあてはまらない D:まったくあてはまらない

### ◆学習指導

【本年度の学校努力目標】

○学習習慣の確立と学力向上を図るため、「わかる授業づくり」への工夫と改善に努め、授業公開や研究協議などの確実な積み上げと合わせて、学習規律の定着を図るとともに、形式にとらわれないメリハリのある授業展開や学習形態などの研究を進める。

NO	評価項目	A	B	C	D
1	各教科において、基礎・基本を明確にし、[指導内容や教材の精選・工夫を行っている。	7 23%	23 77%	0 0%	0 0%
2	授業内容・指導方法・学習形態等の工夫や改善を行っている。(自ら学ぼうとする意欲・関心を高める/授業を活性化する/個に応じた対応をする等のために)	9 30%	20 67%	1 3%	0 0%
3	思考力や表現力を高める、問題解決的な学習指導を行っている。	6 20%	22 73%	2 7%	0 0%
4	授業で生徒の意見にしっかり「うなずき」、「認めたり褒めたり」できている。	2 7%	20 67%	8 27%	0 0%
5	到達度の低い生徒への対処を課題と捉えて取り組んでいる。	5 17%	22 73%	3 10%	0 0%
6	到達度の高い生徒に対する学習指導を、個に応じた視点で工夫している。	4 13%	15 50%	10 33%	1 3%
7	信頼性のある、客観性の高い観点別評価づくりを行っている。	8 27%	20 67%	2 7%	0 0%
8	新学習指導要領(新教育課程完全実施)の内容を理解し、授業を計画的に行っている。	3 10%	18 60%	9 30%	0 0%
9	学校内で他の教員の授業を見学する機会がよくある。	5 17%	13 43%	12 40%	0 0%
10	教員の間で、授業方法等について検討する機会を持っている。	4 13%	14 47%	12 40%	0 0%

### 分析と改善の方策

#### ◆学習指導

##### <成果>

○H27年度の学校評価の課題を踏まえ、また人権教育の実践の取り組みと合わせて、教師が相互に授業見学を行い、意見交流を行う機会を増やすことができた。  
 ○指導内容や教材の精選・工夫、基礎学力の定着などの成果が見られた。  
 ○学力学習状況調査結果の分析から、少人数学習やT・T等、個に応じた学習課題を設定し、到達度の低い生徒に対して個別に課題を与えながら、目標を持たせ、学習を進める機会が増えた。

##### <課題>

- ・学年内の授業見学が生徒指導の視点での見学となり、授業改善の視点で見ることができていない。
- ・会議や出張が多く、授業研究や準備の余裕がない。
- ・観点別の評価が生徒や保護者に理解されていない。
- ・学力の差が大きいため、一斉授業では実施が困難な現状である。
- ・アクティブラーニングの場面では、落ち着かず、静かに授業をすることができない。
- ・教材や備品の不備や不揃いにより効果的な学習ができない。

##### <改善の方策>

- ・学年枠を超え、教科や年齢などのバランスで、時間割に参加者を明記するなど、計画的に進める。
- ・校務の効率化やノー会議デーなどを実施する。
- ・教師同士が忌憚なく意見を言い合える授業改善の取組を進める。
- ・評価規準や各教科での評価方法等を明確に示す。
- ・習熟度別授業やT・T、少人数指導を充実させる。
- ・課題や提出物など保護者にも分かる工夫と、未提出者の連絡をする。
- ・ICTを活用(電子黒板、タブレット、PC教材)などをもっと利用する。
- ・到達度の高い生徒が、つまづいている生徒に教えられるような授業形態を推進する。
- ・市の予算や地域との連携が必要。
- ・入学当初から、きめ細かな指導と新学習システムを取り入れる。

◆生徒指導					
【本年度の学校努力目標】					
○生徒が、学び合い、支え合い、共に成長する多様な教育活動を展開するとともに、日常的な活動を確実に積み上げることの大切さに気づかせ、自主・自立の精神を培う。					
○学校復帰につながる多様なアプローチを学び、関係機関の協力を得ながら、生徒や保護者との積極的な関わりと早期対応により、新たな不登校を生み出さない取組を推進する。					
11	生徒一人一人の特性を多面的に把握し、体罰を排除した心のきずなを深める内面的理解に基づいた指導や支援をしている。	5	22	3	0
		17%	73%	10%	0%
12	弱い立場の生徒や気になる生徒、問題行動を繰り返す生徒への声かけを根気よく行っている。	7	18	4	1
		23%	60%	13%	3%
13	親しみと馴れ合いの区別を付け、一定の緊張感ある言葉のやり取りをしている。	14	15	1	0
		47%	50%	3%	0%
14	生徒の問題行動（暴力防止及び早期対応）に対して組織的に対応できる体制が整っている。	8	19	3	0
		27%	63%	10%	0%
15	家庭や地域、関係機関との連携を密にした指導ができています。	8	18	4	0
		27%	60%	13%	0%
16	校務分掌間で連携して、清掃・挨拶・服装などの指導によく取り組んでいる。	7	19	4	0
		23%	63%	13%	0%
17	生徒の基本的な生活習慣は向上している。	7	16	7	0
		19%	48%	32%	0%
	①授業の態度・意欲	6	20	4	0
		20%	67%	13%	0%
	②あいさつ（登校時・下校時・授業前後等）	2	20	8	0
		7%	67%	27%	0%
	③登下校のマナー	2	13	14	1
		7%	43%	47%	3%
	④命を守るヘルメットの着用	2	16	10	2
	7%	53%	33%	7%	
⑤遅刻	3	20	6	1	
	10%	67%	20%	3%	
⑥集会（学年・全校・行事練習）	9	17	4	0	
	30%	57%	13%	0%	
⑦清掃	3	16	11	0	
	10%	53%	37%	0%	
18	学級活動を主とした学級経営の改善に、学級や学年、学校全体で取り組んでいる。	5	22	3	0
		17%	73%	10%	0%

分析と改善の方策

◆生徒指導	
<b>&lt;成果&gt;</b>	
○「いじめ」や学校生活に関する内容について、定期的に生活アンケートの実施や、教育相談を実施し、問題の早期発見・早期対応に役立った。	
○下校時刻の変更やノー部活デーの実施で生徒の安全や心の余裕とともに、教師の時間的な余裕と生徒と関わる時間の確保ができた。	
○休み時間等の校内巡回指導を実施し、問題行動の未然防止、早期発見、早期対応に努めた。	
○コンピュータ等を活用し、事案データの一括管理を図り、全教職員の問題行動等の共通理解をスムーズに行った。	
<b>&lt;課題&gt;</b>	
・学校の道徳や人権学習としては進んでいるが、家庭を巻き込んだ取組が必要である。	
・日頃からのあいさつや清掃などができていない。	
・多様な家庭環境に伴い、関係機関との連携が不可欠となり、担任や担当だけでは対応が追いつかない	
・言葉遣いや態度など、生徒と一定の距離感を持った関係が築きにくい。	
・いじめの概念が教師にも生徒にも理解されていない。	
<b>&lt;改善の方策&gt;</b>	
・保護者や家庭での道徳や人権学習だけでなく、地域を巻き込んだ学習などを行う。	
・PTAだけでなく生徒会や学年の取組が必要である。	
・専門的な担当者の配置や、関係機関との窓口を一本化する。	
・まず教師自身が見本となる（あいさつ・言葉遣い・服装・掃除や時間など）	
・ポスターや掲示物などで視覚的に訴える。	
・生徒の内面的な理解ができるよう、様々な情報交換と、教師のカウンセリング研修などを行い、多面的な生徒指導や、組織的な生徒指導を行う。	
・その都度、言い直させたり、間違った言葉遣いであることを生徒に知らせるとともに、家庭でも指導できるよう連携を図る。	
・法的ないじめの根拠や規準を理解する。心情や思いも大切だが、法令に照らし合わせた犯罪認識をさせるべきである。	
・SNSなどの利用についての学習会や生徒会による取組を推進する。	

**◆ 特別活動 ◆ 人権教育**  
 【本年度の学校努力目標】  
 ○生徒会を中心とする自主的活動や仲間づくりの活性化と適切な支援により、集団の自浄力を高め、学校の秩序と信頼の定着を図る。  
 ○人権尊重の精神に基づき、生徒を大切にす立場で考え、実行し、すべての生徒が安心して学習や集団活動ができる学校環境をつくる。

19	互いの違いを認め合い、共に支え合う集団づくりを実践している。	7	20	2	1	23%	67%	7%	3%		3%
20	集団づくりで埋もれがちな個性や違いを大切にし、画一的でなく一人一人の違いを認める生徒観や指導観を持って実践している。	1	21	8	0	3%	70%	27%	0%		0%
21	魅力ある学校行事となるよう、工夫や改善を行っている。	6	20	4	0	20%	67%	13%	0%		0%
22	生徒が主体的に活動する生徒会活動となるよう、学校全体で支援している。	10	17	3	0	33%	57%	10%	0%		0%
23	JRC活動を推進する適切な指導や支援を通して、奉仕の精神を養いボランティア活動への意欲や態度を養っている。	4	15	11	0	13%	50%	37%	0%		0%
24	生徒が個々の能力に応じて達成感を得られるよう、部活動の活性化に努めている。	5	15	10	0	17%	50%	33%	0%		0%
25	教育活動全体を通して規範意識を高め、道徳性を涵養する指導や支援を行っている。	7	17	6	0	23%	57%	20%	0%		0%
26	教室環境、校内環境、校内掲示、学校園整備、校外環境の改善が図れている。	6	22	2	0	20%	73%	7%	0%		0%
27	「道徳の時間」を大切に、よりよい授業づくりに努めたり、指導方法の工夫や改善を図っている。	4	22	4	0	13%	73%	13%	0%		0%
28	いじめは「決して許さない」の姿勢で毅然とした指導を行っている。	17	11	2	0	57%	37%	7%	0%		0%

**分析と改善の方策**

◆ 特別活動 ◆ 人権教育

**< 成果 >**  
 ○学校経営基本方針の「学びあい、支えあう」取り組みが充実し、全領域に渡り、仲間づくりや集団での活動を取り入れた形態が実践された。  
 ○行事については、行事の精選を行うとともに、その意義や目的を明確にしながら、キャリア教育や人権教育を推進し、外部の人材を活用する取組ができた。  
 ○道徳授業においては、授業時間の確保や教材研究の充実などに努めており、ローテーション授業の実施や研究会等、より効果的な授業の創造に努め、道徳の授業化に向けて取り組めた。  
 ○ノー部活デーを、週一日完全実施できた。

**< 課題 >**  
 ・部活動に入部しない生徒や外部団体で活動する生徒が年々増え、生徒指導上の観点から、指導が難しくなっている。  
 ・担任の多忙さが、指導案や教材研究、授業研究の推進を妨げている  
 ・県の指導のもとノー部活デーを実施しているが、市内統一で実施していない。  
 ・道徳の授業が充実してきているが、生徒の道徳的実践力につながっていない。  
 ・生徒のボランティアへの関心や意欲が低く、ボランティア参加率も少ない。

**< 改善の方策 >**  
 ・すばらしい授業に触れる機会を増やす。  
 ・赤穂市としてノー部活デーなどの統一実施をすべきである。  
 ・道徳性検査やQ-Uテストを活用する。  
 ・JRCの学習会や啓発授業などを充実させる。  
 ・参加した生徒の振り返りや友だちへの拡大、多方面への啓発などをすべきである。  
 ・部活動指導者の確保と指導力の充実を市や地域として取り組むべきである。

**◆ 特別支援教育の充実**  
 【本年度の学校努力目標】  
 ○インクルーシブ社会の実現をめざす特別支援教育の充実や社会のグローバル化に伴うコミュニケーション能力の向上を図る英語教育の充実、さらに道徳教育の教科化などの今日的課題を見据えた取組の推進を図る。

29	「特別支援教育」（特別支援学級と通常学級内の「気になる子」）に対する積極的な理解を図っている。	7	20	3	0	23%	67%	10%	0%		0%
30	一人一人を大切に、異なる個性を輝かせる仲間づくりに努めている。	4	20	6	0	13%	67%	20%	0%		0%
31	障がいをもつ人々たちへの理解を深め、「共に生きる」社会を築く資質を養う指導に努めている。	5	18	7	0	17%	60%	23%	0%		0%
32	差別や偏見など、生徒たちに身の周りにおける不合理や矛盾に気づく感性を養っている。	4	19	7	0	13%	63%	23%	0%		0%
33	支援を要する生徒たちの情報を幅広く交換し、生徒理解したり研修する校内の支援体制ができてい	9	19	2	0	30%	63%	7%	0%		0%
34	必要に応じて小学校や関係機関と連携し、生徒支援が効率的に進められるようにしている	5	15	10	0	17%	60%	33%	0%		0%

**分析と改善の方策**

◆ 特別支援教育の充実

**< 成果 >**  
 ○特別支援教育の充実を、学校目標の中核に位置づけ、合理的配慮の義務化にともない、全職員で研修や支援体制の強化に努め成果を上げた。  
 ○特別支援学校の地域サポートなど、専門機関を活用し、具体的な支援教育の進め方や指導方法等の実践に努めた。

**< 課題 >**  
 ・特別支援学級の生徒が交流学級で生活することに戸惑いがある。  
 ・通常学級で特別な支援を要する生徒(多動で他人に迷惑をかける生徒)の指導法が難しい。  
 ・小学校との連携が不十分である。情報不足で支援や手を打つのが後手になる。

**< 改善の方策 >**  
 ・支援学級担任が交流学級と積極的に関わりを持つ。  
 ・生徒の実態や生活環境など必要な情報を、小中で引き継ぎ、共有化していく。  
 ・家庭で保護者も一緒に考える機会を提示する。  
 ・特別支援学級単独で、保護者を混えた支援会議を定期的に設け、支援につなげる。

◆ 学校・家庭・地域社会の連携を深め、開かれた学校づくりの推進					分析と改善の方策						
○福祉・ボランティア活動や地域への貢献活動を展開・充実させるとともに、わかりやすく見やすい紙面による学校情報の発信、地域団体との連携、オープンスクールの拡充、地域人材の活用などを通して、地域に開かれた学校、地域に根ざした学校教育を推進する。											
35	教育活動全般について、生徒や保護者、地域の願いによく応えている。	1	24	5	0	3%	80%	17%	0%		<b>◆ 学校・家庭・地域社会の連携を深め、開かれた学校づくりの推進</b> <b>&lt;成果&gt;</b> ○オープンスクールの機会を増やし、時間を決めず自由に参観できることで、例年になく多くの保護者、地域の方の参加があった。 ○学校行事もできるだけ地域の方も参加できるよう案内した。また、地域行事やまちづくりの会合等、積極的に参加し、情報発信・意見交換を行った。 <b>&lt;課題&gt;</b> ・社会の多様化や個々を重視した社会の中で、教師、保護者、地域それぞれの願いがずれてしまう。 ・参観に来て欲しい保護者が学校に気持ちに向かない。 ・来校者が保護者か地域の方か関係者が分からず、不審者でも対応できない。 <b>&lt;改善の方策&gt;</b> ・学校に望むことと学校ができることに差が生じているため、保護者アンケートや学級懇談会など、学校現状を知る機会を増やしていく。 ・校務分掌での参加以上に、全職員に呼びかけ、より多くの職員が参加する体制を作る。 ・ネームプレートなどにより区別がつくように工夫する。
36	教育効果を高めるために地域や外部の教育力の活用を図っている。	4	16	10	0	13%	53%	33%	0%		
37	保護者や地域に積極的に情報を提供し、連携に努めている。	5	22	3	0	17%	73%	10%	0%		
38	保護者や地域の人たちと接する機会を多くもっている。	7	18	5	0	23%	60%	17%	0%		
39	教職員はPTA活動によく参加している。	8	15	7	0	27%	50%	23%	0%		
40	教育活動全般について評価を行い、次年度の計画に生かしている。	3	25	2	0	10%	83%	7%	0%		
<b>◆ 学校・教職員</b>					分析と改善の方策						
41	「授業が最大の生徒指導である」の視点に立ち、授業研究や校内研修への意識を高く保ち、実践への機運が高まっている。	6	22	2	0	20%	73%	7%	0%	<b>&lt;成果&gt;</b> ○若い教師が増え、何に対しても時間をおしまず、すぐに行動を起こすことができ、機動力・行動力が増している。 ○若手教員育成のための組織として中堅教員が中心となり取り組むことができた。 <b>&lt;課題&gt;</b> ・教科の特異性や校務分掌によって、相談する機会少ない。 ・複数授業や時間数も多く、ゆとりもない。職員室での職員の会話もままならない。 ・職員室の机が煩雑すぎる。整理整頓ができていない。 ・会議時間が長い。 ・職員の危機意識が低い。 ・校務分掌の引き継ぎがされていないので、手間と時間がかかっている。 ・定時退勤を実施しているが実際には、遅くまで残っている。 <b>&lt;改善の方策&gt;</b> ・管理職や学年担当などを中心に、声を掛け合い、他校との連携を進める。 ・ベテランの先生から業務を通じて学び、引き継げるようにする。 ・お互い注意できるよう、また注意されるとすぐに実行するような心構えを持つ。 ・ノー会議デーや会議の開始時間を守る、また提案すべきかどうかをよく考える。 ・学校現場における安全や情報管理など、危機管理に対する研修や学習する。 ・校務分掌のフォルダーや、誰もができるように、ルールブックで対応する。 ・統一の時間を決めて、必ず完全退勤をするシステムを作る。	
42	各分掌や学年間の連携が円滑に行われ、有機的に機能している。	3	22	5	0	10%	73%	17%	0%		
43	職員会議をはじめ各種会議が、情報交換と課題検討・解決の場として有効に機能している。	6	18	6	0	20%	60%	20%	0%		
44	教職員間の相互理解が十分になされ、管理職や同僚への「報告・連絡・相談」が十分にできている。	9	18	3	0	30%	60%	10%	0%		
45	教育活動における問題意識や悩みについて気軽に相談しあえる。	10	16	3	1	33%	53%	10%	3%		
46	様々な事に対する危機意識が高く保たれている。	5	20	5	0	17%	67%	17%	0%		
47	課題解決のための校内研修組織が機能し、学校課題に対する研修や取り組みが進んでいる。	6	21	2	1	20%	70%	7%	3%		